

2019年11月29日「上野・谷中建築研修」終了報告

第一支部運営委員会

2019年11月29日（金）09:30-13:30、第一支部「上野・谷中建築研修」が実施されました。会員30名、非会員4名、委員2名 合計36名が参加し、関東地区のみならず、愛知県からも参加されました。講師の溝口義博氏は一級建築士であると共に、JGA会員であり、日頃から建築関係の専門家の訪日客もガイドされており、訪日客が知りたいことなどを含め、実地的な講義となりました。東京文化会館はコルビジエの愛弟子とも言える前川国男氏の設計で、向かい合う師匠のコルビジエ設計の国立西洋美術館を大いに意識して設計されたとのことでした。屋根の高さが国立西洋美術館を超えないようにしており、又、国立西洋美術館に面したガラスの格子模様は国立西洋美術館の入口の広場の格子模様と同様のデザインであることなどを説明されました。コルビジエ設計の国立西洋美術館は同氏が唱えた近代建築の要点（ピロティ、屋上庭園、自由な間取り、自由な立面等）を備えているとの説明がありました。又、日本で最初に後から改修した（レトロフィット）免振設備を地下の窓から見える部屋を見学。その後、東京国立博物館に行き、1881年創建時のジョサイアコンドル設計の建物が関東大震災で壊れた後に、1938年渡辺仁により設計された、和様と洋式の混合の帝冠様式の説明がありました。その後、鳥取藩池田家の上屋敷正門であった、通称黒門の前を通り、左手に見える1890年に建てられた日本最古の洋式音楽ホールとして重要文化財指定の旧東京音楽学校（藝大の前身）奏楽堂を紹介。黒田記念館前の角には重厚感のある立派な建物があるが、1933年の京成本線開通時に建てられた旧博物館動物園駅入口であることを知る人



は少ない。その後、国際子ども図書館を視察。ここは1906年に旧帝国図書館として建てられ、2002年に国際子ども図書館として安藤忠雄氏設計により改修され、開館した。古い建物を残しつつ新しい近代建築との調和を図っている。その後は戦前からの建物が残る谷中地区を視察。旧吉田屋酒店、その前の日本家屋のカヤバ珈琲、元銭湯の美術館 SCAI THE BATHHOUSE などを見ながら、桜並木と徳川慶喜の墓のある谷中墓地を通り、築地塀を見て、谷中防災コミュニティーセンターにあるミニ消防自動車を見学し、最後に下町の「谷中ぎんざ」を紹介の後、朝倉彫塑館を視察して終了となり、中身の濃い研修となりました。